

SC-IB NEWSLETTER

2026/01/27 発行

I 2・3月の茨城県連盟・日本連盟事業

※会議等は除く

月日	名称	主催/開設	内容
2月1日	団委員(長)セミナー	総務委員会	ワクワク自然体験あそびの工夫と効果的募集方法をテーマとしています。「申込受付中」
2月11日	指導者のつどい	県コミグループ	日本連盟から AIS コミッショナーをお招きし、世界スカウト機構(WOSM)が提唱する AIS ポリシーについて講演戴きます。「申込締切：2月4日」
2月15日	グリーンバーのつどい	県コミグループ・進歩委員会	ボーイ隊の班長・次長向けに意識や技能を高める事、県内スカウト達の仲間づくり等を目的としています。「申込締切：2月6日」
3月8日	第88回ボイスカウト講習会	指導者養成委員会	指導者導入訓練であり体験を通してスカウト運動の概要とスカウト教育の原理と方法を学びます。「申込締切：2月26日」
3月6日～8日	第8回関東ローバーの集い	第8回関東ローバーの集い実行委員会	RCJ 関東ブロック恒例のブロックイベントです。船橋市青少年キャンプ場にて開催されます。2月11日(水)20時～オンラインの事前集会にもご参加ください。「申込締切：1月31日」
3月15日	セーフ・フロム・ハーム推進フォーラム	日本連盟	安全普及啓発活動事業の一環で、安心・安全なスカウト活動が展開できる指導者養成を目指します。実際に問題が発生した時の基本的な対応方法に学びます。「申込締切：3月4日」
3月20日～21日	ベンチャーラリー2025	ベンチャーラリー実行委員会・イベント国際委員会	ベンチャースカウトによる自主運営の活動です。今回はJR山手線一周ミッションハイクとして、チーム毎にミッションを達成しながら途中宿泊を含めて一周します。「申込締切：2月1日」

※上記各事業の参加申込締切が近づいています。地区コミッショナーや団委員長は各指導者の、また各隊隊長はスカウトの参加申込について、フォローの程宜しくお願ひ申し上げます。

II 事務局からのお知らせ

1. 第26回世界スカウトジャンボリー

2027年開催の第26回世界スカウトジャンボリーに参加を希望したスカウトは、2月10日(火)必着で、県連盟事務局に「海外派遣県応募申込書(スカウト用)」(県連盟ホームページにも掲載)をご提出ください。

今回の世界スカウトジャンボリーは、参加定員(日本連盟で10個隊)が定められていますので、県連盟の面接を経て選考にて参加者を決定することとなります。

III 県コミッショナーからのお知らせ

1. 「林野火災注意報・警報」に関する注意喚起（伊澤県コミッショナー）

2026年1月から運用が始まった「林野火災注意報・警報」の注意喚起についてお知らせいたします。

令和7年2月に発生した岩手県大船渡市の大規模林野火災を受け、林野火災多発期（1月から5月）に一定の気象条件に達した場合、「林野火災警報」や「林野火災注意報」を発令し、発令中の「屋外における裸火で火の粉が飛散する行為」を制限することで、林野火災予防の実効性を高めることが必要とされ、**林野火災注意報・警報の運用が2026年1月より開始されました。**

この警報・注意報は、毎年1月1日から5月31日までの期間中、気象条件やその他の発令指標を満たした場合に該当する市町村ごとに発令され、対象区域内で火の使用が制限されます。

ボイスカウト活動に伴う、キャンプファイヤーや立ちかまどによる炊事なども対象になりますので、各市町村の条例をよく調べて、順守をお願いします。適用は市町村単位になりますので、例えばキャンプに出かける時などでは、キャンプ地の市町村のホームページ等で制限の範囲や条件、注意報・警報の発令の有無をお確かめください。

林野火災警報等の発令時には、以下の火の使用が制限されます（違反した者に対して30万円以下の罰金又は拘留に処することが消防法で定められています）。

- ① 山林、原野等において火入れをしないこと。
- ② 屋外において、花火（がん具用を含む。）を行わないこと。
- ③ 屋外において、火遊び又はたき火をしないこと。
- ④ 屋外において、爆発しやすい物や落ち葉などの燃えやすい物の近くで喫煙をしないこと。
- ⑤ 屋外において、たばこの吸がらや灰を捨てる際は、火が確実に消えていることを確認し、処理すること。

○制限される行為の例：

例) どんど焼き、炎を使った土壤消毒や殺虫、花火や火遊び、たき火、キャンプファイヤー、落ち葉を燃やす、可燃物の近くでの喫煙、かまど（薪）等

○林野火災警報等発令中でも規制対象外の行為

例) バーベキュー台、七輪、ガス器具など
(火の粉が飛散しない形態の火を使用する製品等に限る)

IV 各種委員会よりのお知らせ

1. 総務委員会（吉田副委員長）

2月1日に「団委員(長)セミナー」を開催いたします。まだ受付中ですので、奮ってのご参加をお願いします。詳細は1月8日配信の「団委員長セミナー開催案内」をご参照願います。

- ・テーマ：ワクワク自然体験の工夫と効果的募集方法
- ・日程：2026年2月1日(日)13時30分～16時30分(受付13時10分より)
- ・会場：茨城県青少年会館 中研修室
- ・参加対象：県連盟内のすべての団委員長および団委員
- ・備考：今回は座談会形式で行う予定です。

2. 指導者養成委員会（郡司委員長）

2～3月の指導者研修は以下を予定しています。

- ・3月8日(日) 第88回ボーイスカウト講習会 豊里ゆかりの森

今年度の指導者研修は上記の第88回ボーイスカウト講習会が最後になります。一年間ありがとうございました。

また地区開設の研修会におきましては、関係者の皆様には大変お世話になりました。次年度もよろしくお願いいたします。

次年度からスカウトコースは茨城・栃木・群馬の3県連盟での持ち回り開催となりました。2026年度はゴールデンウィークに群馬県で開催予定です。課程別研修は茨城で11月8日に開催いたします。県外の研修へ参加を希望される場合は、早めに地区コミッショナーにご相談ください。

なお、スカウトコース参加に向けての100%講座を4月5日(日)に予定しています。会場が決まり次第、参加案内を各団にお送りいたします。

3. イベント国際委員会（園部委員長）

3-1) ベンチャーラリー2025 情報

計5回の実行委員会を経て、最終的に下記のとおり決まりました。

- ・実施内容：「山手線一周ミッションハイク」
チーム毎にミッションを達成しながら宿泊を含めて山手線一周 36kmを歩きます。
- ・日時：3月20日(祝・金)～21日(土) 一泊二日
- ・申し込み：各団毎に申込用紙で 2月1日(日)までにメールでお知らせください。
(イベント国際委員会委員長 園部 snbys@mx1.ttcn.ne.jp)
※申し込み漏れを防ぐため、参加の無い団も「無し」でお送りください。

当初は福島での雪中キャンプを計画しておりましたが、時期的に雪の状況や、冬眠明けの熊のリスクなどを考慮し大幅な見直しをいたしました。

詳細については、各団に実施と募集の案内を周知しております。

みんなで挑戦して楽しく実施しましょう。大勢のベンチャースカウトの参加をお待ちしております。

3-2) IB グランプリ 2025 県大会

2025年度のIB グランプリを12月7日(日)ひたちなか市松戸体育館で開催いたしました。

・参加台数

B クラス(ビー・バ一年代)

42台

C クラス(カブ年代)

93台

A クラス(ボーイ年代以上)

22台

・参加人数(概数)

スカウト

150人

リーダー

50人

保護者

100人

スタッフ・奉仕者

33人 合計 333人

今年も各クラスとも地区大会から多数のエントリーがあり、選抜された車両で盛大に開催できました。

レースはAクラスのレギュレーションもB・Cクラスと同様とし、レースをスカウトと成人に分けて開催・表彰を行いました。デザイン賞部門も170台のエントリーがあり、傑作ばかりで選考に迷いました。

レース及びデザイン賞の結果詳細につきましては、SCOUTING 茨城 Vol.56 (2026年1月号)をご参照ください。



V 各地区・各団の活動紹介

1. オーバーナイトハイキング（結城第1団 宮田俊晴）

第3地区では地区内友好団の合同行事として、古河第1団が中心となり、年末にオーバーナイトハイキングを実施しています。今回は東武動物公園から古河市・ネーブルパークまで約36kmを16時間かけて踏破しました。

参加者は古河第1団、坂東第1団、結城第1団、筑西第1団、桜川第1団、笠間第1団の6個団のボーイスカウトとベンチャースカウトです。ベンチャー班とボーイ班に分かれて、6つのチェックポイントを回りながら計測や歴史調査などの課題をクリアしてゴールを目指しました。

途中、保護者の方の炊き出しなどで体を温めながら、全員で完歩しました。



2. 第4地区ラウンドテーブル、定型外訓練（第4地区 副コミッショナー 富田弘司）

今年度は、各地区内の団・隊指導者の研修ニーズを把握し、地区に必要な研修を定型外訓練の一つとして、地区コミとトレーニングチームが連携しつつ分散開催を進めました（他地区開催の定型外訓練への参加も奨励されています）。

第4地区では、春秋2回シリーズとしてカブ隊及びボーイ隊のプログラムプロセスについて理論と実践を学ぶ機会としました。

第1回の5月31日は、つくば市東光台体育館会議室にて講義や簡単な演習を含めてプログラム企画を学び、必要な技能を確認しました（カブ部門ではコマ図作りとコマ図読解によるミニハイク）。

第2回の10月11日には、つくば第3団の野営場「あかげらの森」から万博記念公園のコースで、自ら企画したプログラムを基に実際にハイキングを行いながら幾つかの技能課題をカブ隊・ボーイ隊のプログラムに分かれて体験しました（ボーイ部門は手旗、ロープ、歩測、観察のゲームと6桁座標によるハイキング）。

講師は、県トレーニングチームのメンバーに加えて、新しく就任した地区の副コミメンバーが務め、次世代の育成も図る機会としました。

また、ニーズの高かった「火を囲んで本音で語り合おう」をラウンドテーブルとして11月29日（土）に「あかげらの森」にて開催し、22名の指導者及びスタッフが焚き火を囲みつつ、スカウティングへの想いや様々な思い出話を交換して、懐しいひと時を過ごしました。



VI 連載コラム～信仰奨励専門委員会より～



日本人の心とスカウツオウン

日本で育った私たちは、宗教や国家への意識を日常の中で強く意識することは多くありません。子どもの頃、学校行事で国歌を歌う機会はほとんどなく、国旗掲揚に反対する声がニュースで取り上げられることもありました。しかし、オリンピックや国際試合となれば、誰もが自然に日の丸を振り、日本を応援し、日本人であることに誇りを抱きます。この感覚は、海外の人々から見ると不思議に映るようです。

宗教についても同じです。日本人は特定の宗教を「信仰している」と自覚することは少ないものの、生活の中には神道や仏教の習慣が深く根付いています。結婚式は神前式やキリスト教式を自由に選び、年末にはクリスマスを祝い、大晦日にはお寺の鐘を聞きながら年越しをし、年が明ければ神社に初詣に向かいます。子どもが生まれればお宮参りをし、誰かが亡くなればお寺で葬儀を行う。願い事があれば神社に手を合わせ、成就すればお札参りをする。こうした行動は、神仏習合の歴史を背景に、日本人にとってごく自然な営みとして続いてきました。

海外の方にこの話をすると、イベントとしては理解されても、「信仰は何か」と問われて「特にない」と答えると、驚かれることが少なくありません。国や家族単位で明確な信仰を持つ文化圏の人々にとって、日本人の宗教観はとても独特に映るのでしょうか。

しかし本当に「信仰がない」と言い切れるのでしょうか。私自身を振り返っても、日常的に参るのは神社であり、ご不幸の際にはお寺に

足を運びます。善悪よりも「清浄と穢れ」を重んじる神道の世界觀は、私たちの行動や価値觀の奥深くに息づいています。海外では性悪説を前提とした社会が多いと言われますが、日本人が協調を大切にする姿勢は、この神道的な感性に支えられているかもしれません。こうした姿勢は、国際社会の中でも尊敬を集める日本人の美德として評価されています。

「神(仏)と国とに誠を尽くし」という言葉を意識すると、どこか身構えてしまうことがあります。しかし、実際には日本人の生活そのものが、すでにその精神を自然に体現しているのではないでしょうか。

カブスカウトの子どもたちに「どんな時に手を合わせる?」と尋ねると、「ご飯をいただく時」「謝る時」「ありがとうと言う時」「お願い事をする時」「お祈りをする時」「お墓参りの時」といった答えが返ってきます。これはまさに、八百万の神を敬い、自然と人が調和する神道の心、そして仏教的な所作を無意識に実践している姿そのものです。

だからこそ、スカウツオウンは日本のスカウトにとってとても自然で、意義深い時間になります。特定の宗教儀礼ではなく、自分自身と向き合い、「ちかい」と「おきて」を静かに振り返るひととき。そこには、日本人が古くから大切にしてきた“静かな信仰”が息づいています。

スカウツオウンは、子どもたちが自分の内側にある価値觀や祈りの形に気づき、それを育していくための、穏やかで豊かな時間なのだと思います。

(つくば第3団 原田博史 信仰奨励委員)

